

30年以上の経験が、人々の心を癒す。離島への手紙。あふれる笑顔と、離島の空気。大切な思い出。だんなの出立。みんなの笑顔。

JAC 40周年の今年、私は定年退職を迎えた。



緊張が押し寄せ、不安な気持ち。出発の準備が整った。離島の空気が、心を癒す。

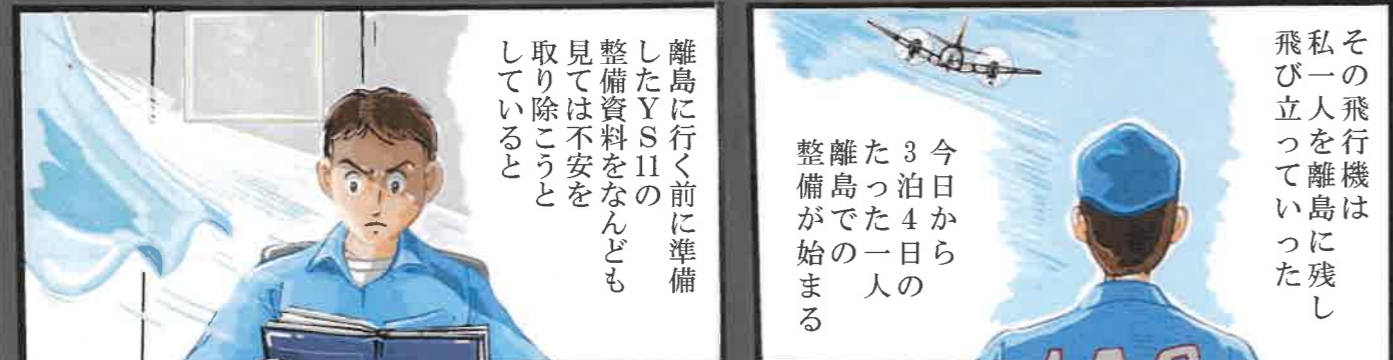
今では考えられませんが、緊張が押し寄せ、不安な気持ち。出発の準備が整った。離島の空気が、心を癒す。

入社当時の若手整備士は、一人ひとりが整備士としての誇りを持っていました。



当時はツナギのまま飛行機に乗り込み、離島の空港に着くや飛行機を点検。

飛行機を点検し、離島の空港に着くや飛行機を点検。



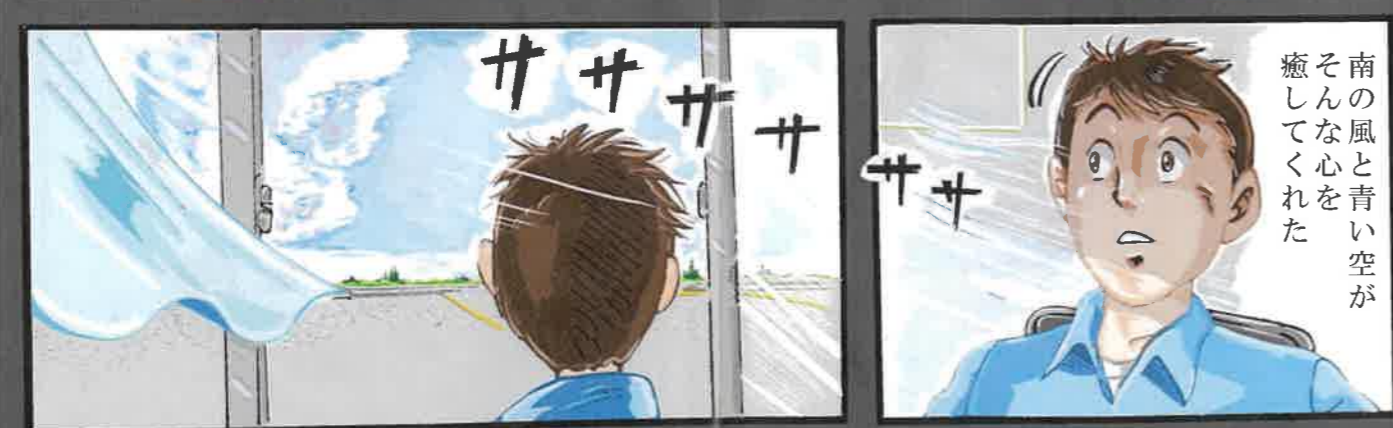
離島に行く前に準備したYS11の整備資料を、見ると不安を取り除けると。

離島に行く前に準備したYS11の整備資料を、見ると不安を取り除けると。



その飛行機は、私一人の飛行機になった。離島の空気が、心を癒す。

今日から3泊4日の離島生活が始まる。



南の風と青い空が、癒してくれた。

南の風と青い空が、癒してくれた。



南の風と青い空が、癒してくれた。

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

2023夏(ハイビスカス) Vol.24

# JAC NOW

～ゆいタイム～



JAC 40th ANNIVERSARY SINCE 1983

## 皆さまへ

本日のご搭乗、誠にありがとうございます。  
 日本エアコミューター(JAC)は、2023年7月1日に創立40周年を迎えることができました。これもひとえに、ご愛顧くださいましたお客さま、ご支援を賜りました地元をはじめ多くの関係者の皆様のおかげと深く感謝しております。  
 1983年に奄美群島の航空ネットワークの維持発展を目指し奄美大島で誕生した私もJACは、その後鹿児島空港に本拠地を移し、現在は奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の奄美群島の島々をはじめ種子島や屋久島、隠岐など、自然豊かな地域へ「地域の翼」として就航いたしております。それらの地域へ運航するATR型機は、同じクラスのジェット機と比べ消費燃料やCO2排出量が約45%も削減できる非常に環境に優しいエコ機材です。  
 今般40周年に際して、まずはエコを象徴するグリーンをイメージカラーにした記念ロゴを作成しました。今後、このロゴとともに感謝を皆さまに届けるべくさまざまな周年企画を催しますので、どうぞご期待ください。  
 JACはこれからもエコ機材「ATR」で、地域に密着した航空会社として、「未来の空へ」お客さまと地域をつなぎ、そして自然を大切に次世代に引き継いでまいります。

日本エアコミューター株式会社 代表取締役社長 武井 真剛



## 読者アンケートのご案内!

機内誌「ゆいタイム」の読者アンケートにご協力をお願いします。QRコードからアクセス可能です。→



バックナンバーは、JACのホームページでご覧いただけます。  
<http://www.jac.co.jp/magazines/>



この紙は国産竹100%を原料に鹿児島県薩摩川内市で作られる「竹紙」を使用しています。木を切らずに紙を作る取り組みは、環境と森を守り、豊山や生物多様性の保全、地域経済に貢献しています。



## 「闘牛とともに生きる町」～伊仙町(徳之島)より～



2023年5月4日開催 徳之島全島大会

「闘牛」をネット検索すると、徳之島の闘牛に関する記事が多く出てくることでしょうか。そう、徳之島は闘牛に熱い島です。「強暴」「怖い」と思われがちな闘牛ですが、その迫力ある巨体とは異なり、彼らは普段とても穏やかで、優しい目をしてます。

畜産牛とは異なり、十数年の歳月を生きる闘牛は、牛主からたくさんの愛情を受けて大切に、大切に育てられます。

牛主は仕事の合間をみて朝早くから夜遅くまで欠かさず牛舎に向き闘牛の世話をします。その姿はまるでわが子を育てる親のようです。闘牛を大切に育てる姿を間近で見続けている子どもたちも闘牛だけでなく他の生き物に対して愛情深く、命を育てることの責任や尊さを学べます。

離島や地方における若者の労働力不足は現代社会の問題となっています。徳之島の子供たちも中学校・高校卒業を機に大多数は島を離れますが、闘牛を育てたいという思いが強く、故郷に戻る若者は比較的多いです。



写真提供: 当 依央莉 (791 141)



写真提供: 当 依央莉 (791 141)

伊仙町役場 きゅらまち観光課 分室観光係  
 住所: 鹿児島県大島郡伊仙町 目手久626  
 電話: 0997-81-7055

徳之島には年に三回、「全島一大会」と呼ばれる無差別級横綱を決定する試合があります。一トンを超える闘牛が激しくぶつかり合う様は、大変迫力があり、島内外問わず熱狂的なファンが観戦に訪れます。今年も十月二十二日、伊仙町なぐさみ館において全国闘牛サミットと併せて開催されます。伊仙町は特に闘牛愛に溢れた町です。ぜひ、伊仙町へ足を運び、白熱した闘牛大会と一緒に観戦しましょう。

## 屋久島にお越しの皆さまへ

屋久島が世界自然遺産に登録されて今年で30年になります。これを機に、来島者に向けて放映してきたマナービデオを21年ぶりに全面改定しました。皆さまに守っていただきたいマナーやルールを美しい映像とアニメーション等を組み合わせ、わかりやすく紹介しています。

新たに屋久島空港手荷物受取場でも放映を始め、YouTubeにも掲載していますので、ぜひご覧ください!

屋久島マナーナビ YouTubeページ



National Parks of Japan

【お問合せ先】環境省 屋久島自然保護官事務所  
 Tel: 0997-46-2992 ☒: RO-YAKUSHIMA@env.go.jp

## お詫びと訂正

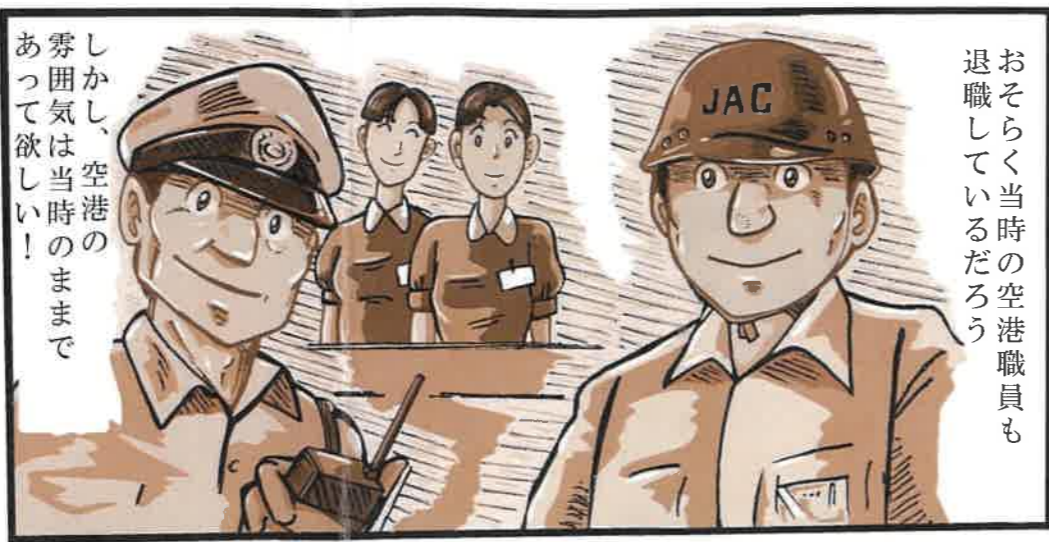
ゆいタイムVol.23のamablue+plus掲載記事にて、以下の誤りがございました。下記のとおり訂正いたします。

誤) 天城武松原登山道  
 正) 天城岳松原登山道

読者の皆さまならびに関係者の皆さまにご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫びいたします。

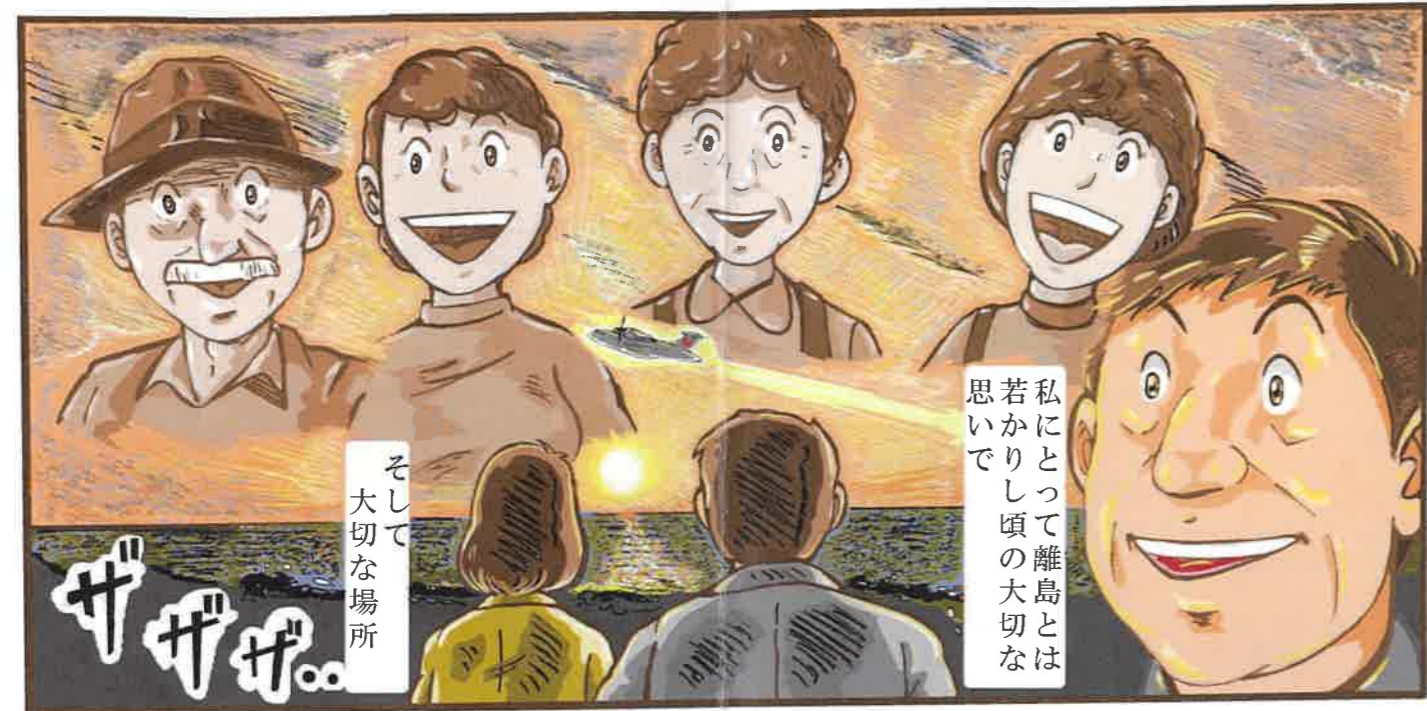


今度は妻と！



おそらく当時の空港職員も退職しているだろう

しかし、空港の雰囲気は当時のままであって欲しい！



私にとって離島とは若かりし頃の大切な思い出

そして大切な場所

ザザザ



2022年度入社  
新入社員の  
喜界島研修の様子

今は当時のような派遣整備はないが、違う形で若い整備士に受け継がれていると信じたい！  
そして次は若い整備士たちが離島の人々と繋がりを深め、離島の翼を支えていくだろう！  
JAC 40周年を迎えて改めて実感した  
JAC整備 草野



いつものまにか、自然と島の人々とけ込み、みんな声をかけてくれた



月に2〜3回の離島出張は私を成長させてくれたのか、数度のトラブルもなんとか乗り越え、一年二年と年月がたっていった



空港レストランのおばちゃんがつくるチャーハンと焼きそばが、最高においしかったミ



宿泊先のオーナーご家族は自然と接してくれ、正月の出張では家族のみならず、過ごさせてくれた



それ以来行く機会もなく、時がたち定年を迎え



あれから30年がたち、時代の流れで当時の派遣整備もなくなった  
観光案内で空港にきていたお姉さん、年賀状のやり取りをしてきたが、途絶えてしまった



あの青い海と青い空を見に行こう！  
そして30年前の記憶に新たな思い出を付け加えるため、次はプライベートで離島の人々に行こう！



私の思い出の30年前の若いまま  
しかし現実では、私より年上、みんな元気になっているのだろうか？